今井小だより

横浜市立今井小学校
令和３年１月29日
学校だより２月号

学校教育目標　：　か　が　や　い　て　い　る　子「自分大好き！今井大好き！」

変化に対応できる能力を育てる

学校長　森脇　信行

職員玄関前のアホロートル
（体長３㎝）

２月を迎えます。２月３日は春の季節の始まりとされる「立春」と言われる日です。そのため、立春の前日が季節の分かれ目を指す「節分」となります。もともとは、立春、立夏、立秋、立冬の前日を節分と言いましたが、今では豆まきの風習が残っている２月の立春の前の日だけを指すようになったようです。また、立春とは春が立つと書きますが、はじめて春の気配が現れるという意味です。長く厳しい冬が一段落して、春の訪れを待ち望む季節でもあります。学校の裏庭では、ふきのとうが地面から顔をだし、木々の芽は膨らんでいます。確実に春は近づいてきています。

さて、今年度は今井小学校にとっては140周年にあたり、過去を振り返ると共に、次の時代について考える機会もたくさんありました。

その中で、Society5.0と呼ばれる次の社会（Society1.0:狩猟社会、Society2.0:農耕社会、Society3.0:工業社会、Society4.0:情報化社会に次ぐ社会）は、デジタル革新とイノベーションを活用することで実現する社会であると言われています。令和に生きる子どもたちは、生まれた時からパソコンやスマートフォンが身近にあり、インターネットを自由自在にこなして成長しています。ビデオや画像などが簡単に手に入り、自らの興味・関心に応じて様々な知識を身に付けることができます。一方で、信頼性の低い情報を鵜呑みにしたり、顔の見えない相手とのやり取りで危険な状況に追い込まれたり、通信方法を間違えて友人とトラブルを起こしたりする負の部分も多く起きています。さらに、多くの人と話し合い協働することが苦手で、知識はあるがコミュニケーションをうまく取れず人間関係を上手に築く力が身につかずに大人になってしまうことも心配されています。

令和の時代は、これまで人類が培ってきた文化や伝統に加えて、新たな価値や物が創り出されていくことでしょう。AIが出現し、私たちの生活そのものが予想を超えるスピードで変化しています。こうした時代を生きる子どもたちには、多くの体験を通して、確実な知識や技能を身につけ、様々な人と関わり、価値観や考えに触れ、深く考えることが必要になってきます。

今井小学校では、これまでに培ったよさを継承しつつ、新たな環境の中で子どもたちが幸せに生きるために必要な能力を育てていきたいと考えます。